近畿地方整備局　様
淀川水系流域委員会　様

07/10/30　　宇治「防災を考える市民の会」　梅原　孝

前期放流・塔の島付近の問題等についての質問及び意見

以下の質問及び意見についてお答えください。

１、第 65 回委員会・審議資料２－４－１原案に関わる質問・回答集 576 番・宮本委員が「琵琶湖の後期放流 1500m3/ｓは、従来宇治川の改修計画流量が 1500m3/ｓだからその流量を限度に、最大限後期放流させると理解していた。しかし、原案では戦後最大洪水を安全に流下させることを目標にしていることから、整備計画における宇治川の目標も戦後最大洪水 1100m3/ｓとなると考えられる。そうであれば、整備計画における後期放流も 1100m3/ｓになるのではないか。」と質問されています。全くそのとおりで、これが整備局の一貫した考え方でした。宮本委員の質問に対する回答は、この点に全く言及していません。原案の方針は、何十年と下流住民に説明してきた内容と違い全く理解できません。未解決の問題が山積する中では、後期放流も前期放流にあわせるべきです。

２、上記の宮本委員の質問内容と同様に、昭和 48 年に開催された「第 2 回宇治橋付近景観保全対策協議会において縄田顧問（当時の淀川工事事務所長）が「天ヶ瀬ダムの放流量を増やすために川底を下げるのではないかということだがこれは違う、琵琶湖総合開発とからんで、お考えになっているようだがそうでない。というのは、現在洪水の時、瀬田川の洗いぜきは全閉している。したがって洗いぜきから下流の、ここまでの流域面積だけが対象になっている。その間琵琶湖流域に降った雨は、全部とまりそのため水位があがり、琵琶湖沿岸は浸水、被害がおこるがこれは総合計画の中で琵琶湖周辺の治水という事で解決していく問題である。」と明確に言い切っておられます。

　ですから宇治市民は、1500mㇳﾝ/ｓを宇治川に流すために悩み苦しんできました。しかし、未だに亀石問題をはじめ多くの問題が解決不能のままとなっています。1100ㇳﾝ/ｓなら展望も出てきます。これまでの基本方針をなぜ堅持できないのでしょうか。

３、洪水時における天ヶ瀬ダムの放流量は、これまで 1200ㇳﾝ/ｓでしたが、今回 1140ㇳﾝ/ｓに変更されました。しかし計画高水流量 1500ㇳﾝ/ｓは、これまでは宇治橋付近でとのことでしたが、今回は山科川合流点前に変更されました。宇治橋付近の計画流量はいくらですか。質問 786 の回答では「算出していません」となっていますが、洪水時における塔の島付近の流下能力を確保するためには、必要と考えますが。

４、質問 786 の回答では、天ヶ瀬への洪水時の流入量は、1400ㇳﾝ/ｓと回答されています。これまでは 2300ㇳﾝ/ｓで、ダムで調整して 1200ㇳﾝ/ｓの放流量になるとの事でしたが、1400ㇳﾝ/ｓなら現行の 900ㇳﾝ/ｓ放流で可能ではないのでしょうか。

５、質問 182、千代延委員への回答では、「宇治地点の 200ㇳﾝ/ｓ減は、大戸川ダムで解消

される効果」と回答されています。そうすれば、宇治橋付近も 1300 ㌧/ｓで、ダムの放流量も 1000 ㌧/ｓになるのではないのでしょうか。

６、第 64 回委員会審議資料 1-4-1、図４宇治川流下能力で、戦後最大流量はダムから観月橋手前まで 1100 ㌧/ｓであるが、この間の流域河川等からの流入量はいくらでしょうか。

７、第 64 回委員会審議資料１－４－１、図８・H18 年滋賀県の緊急要請で、+30ｃｍに達したと知事から緊急要請が整備局にされたとのことであるが、雨が降れば水位は上がるものでいたし方が無いと考えます。宇治川でも一気に１、２ｍも上がり危険な状態になることがしばしばです。この緊急要請に対する整備局の考えと、この洪水での被害状況をお教えください。

８、第 64 回委員会審議資料１－４－１、図 20・塔の島地区の河川整備の方針では、断面図も記載されているが、実際にどうなるのかこの図では分かりません。50.0、50.2ｋｍなど各断面における掘削前と現状、掘削後、さらに当初の 3m 掘削案について断面図に本川、派川ごとの OP 基準での水面からの深さ、掘削の深さ、及びその断面積、流速について、平常時と洪水時期、後期放流時期にわけてお示しいただきい。

９、第 64 回委員会審議資料１－４－１、図 21、22、23　景観への配慮では、島の周りに砂利を囲っているが、ごろごろと硬いイメージで、河川工事がされるまでの柔らかく暖かい感じは全く出ていません。図 26 で将来期待できる砂州としていますが、ダムから土砂対策は当然今回解決すべきもので、またこの対策によって断面積等がどうなるのか、前質問８と同様に示していただきたい。

１０、　第 64 回委員会審議資料１－４－１、図 29 今後の課題では、工法について新技術の活用等の検討が言われているが、川底の掘削、島の切り下げ、トイレの移設、樹木の移植等やっと落ち着いてきた観光宇治がまたがたがたすると思うともうやめてほしいが実感です。それも後期放流のためになぜ宇治が多大の犠牲を払わねばならないのか納得できません。

１１、　第 64 回委員会審議資料１－４－１、図 29 今後の課題では、課題 5 の亀石対策について「掘削による水位低下で亀石らしく見える日数が減ることになり、対策の必要性を含め検討していく。」とされていますが、らしく見える日が 140 日が 40 日になるとの話もありますが、ほんとうでしょうか。増水すれば見えなくなり、ほとんどらしく見える日は無くなるのではないのでしょうか。

　亀石は、宇治川のすばらしい景観を構成する重要なものです。「対策の必要性を含め検討」では方針の大幅な後退です。対策は必要であり、このこと抜きの見切り発車は市民にとって重大な損失です。